

IV 感染症予防

1. 感染症予防及び防疫

根拠法令等	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法） 予防接種法
健康さくら 21（第 2 次） 【改訂版】目標値 （市の現状）→（目標値）	・ B C G を 1 歳までに受ける人の割合 101.4% → 100% ・ 1 歳 6 か月までに四種混合（ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ）の予防接種（1 期初回）を終了している人の割合 97.2% → 増加 ・ 1 歳 6 か月までに麻しん風しんの予防接種を終了している人の割合 88.9% → 増加

《目 的》

近年、新たな感染症の出現や既存感染症の再興などが見られ、予防対策の充実が求められている。感染力の高い新型感染症については、市民の健康を脅かす 1 つの要因となっており、市民を感染症から守り、健康的に暮らせるよう、未然防止に努めるとともに、発生に対しては迅速で的確な対策を講じることが必要となる。そのためには、各年代にあった定期的・計画的な予防接種を行い効果的な予防接種事業の推進に努めるなど、感染症の発生予防やまん延防止を進めながら、公衆衛生の向上を図るための予防接種の重要性や知識、予防対策を広く市民に広報・啓発を行い、感染症流行時に迅速に対応できる体制づくりを進めることが必要である。

《予防接種実施時期》

平成 31 年 4 月 1 日から令和 2 年 3 月 31 日（実施日時については、各医療機関が定める）

※高齢者インフルエンザは、令和元年 10 月 1 日から令和元年 12 月 31 日

《予防接種実施場所》

- ・市内の 76 個別予防接種協力医療機関（令和 2 年 3 月末時点）

※医療機関により実施している予防接種の種類が異なる。

- ・千葉県内相互乗り入れ制度協力医療機関等

《予防接種周知方法》

乳幼児

- ・出生届出又は転入届出後、予防接種の予診票つづり又は予診票等を個別通知。
- ・市内の協力医療機関を、予診票同封の案内文、健康カレンダー、ホームページに掲載。

学童

- ・対象となる年齢の誕生月の末日に予診票等を個別通知。
- ・市内の協力医療機関を、予診票同封の案内文、健康カレンダー、ホームページに掲載。

※子宮頸がん予防接種については、予診票の自動発送はせず、接種希望者のみに接種の有効性とリスク等を説明した上で予診票を発行。

高齢者

- ・65 歳以上の対象者に、予診票等を個別通知。
- ・60～64 歳の対象者のうち希望者には健康増進課に連絡をもらい、予診票を個別通知。
- ・市内の協力医療機関を、予診票同封の案内文、ホームページに掲載。

成人

- ・昭和 47 年 4 月 2 日～昭和 54 年 4 月 1 日生まれの男性に、風しん抗体検査・予防接種クーポン券を個別通知。
- ・昭和 37 年 4 月 2 日～昭和 47 年 4 月 1 日生まれの男性には次年度以降に通知予定だが、希望があればクーポン券を発行。

《普及啓発概要》

【個別通知】

	対象者	内容	時期	回数
予診票等発行 (52 回)	出生者	予診票つくりと案内文	毎月	12
	転入者	予診票と案内文	随時	
	日本脳炎 2 期 対象者 (9 歳)	日本脳炎 2 期予診票と案内文	毎月	12
	二種混合 対象者 (11 歳)	二種混合予診票と案内文	毎月	12
	高齢者インフルエンザ 対象者 (満 65 歳以上)	予診票と案内文	9 月～ 12 月	13 (55, 587 通)
	高齢者肺炎球菌 対象者 (年度内に 65 歳になる方)	予診票と案内文	4 月	1 (2, 367 通)
	(年度内に 70 歳・75 歳・ 80 歳・85 歳・90 歳・95 歳、 100 歳以上になる方)	案内文	4 月	1 (4, 236 通)
	風しんの追加的対策 対象者 (昭和 47 年 4 月 2 日～ 昭和 54 年 4 月 1 日生まれ の男性)	風しん抗体検査・予防接種クーポン 券と案内文	5 月	1 (8, 989 通)

	対象者	内容	時期	回数
接種等勧奨 (103 回)	麻しん風しん (MR) 2 期 未接種者 (平成 25 年 4 月 2 日～ 平成 26 年 4 月 1 日生まれ)	麻しん風しん (MR) 2 期勧奨 ハガキ	6 月 12 月	2 (1, 113 通) (367 通)
	日本脳炎 未接種者 (平成 13 年 4 月 2 日～ 平成 14 年 4 月 1 日生まれ)	日本脳炎経過措置勧奨ハガキ	7 月	1 (955 通)
	(平成 19 年 4 月 2 日～ 平成 20 年 3 月 31 日生まれ)	日本脳炎経過措置勧奨ハガキ	7 月～ 3 月	10 (633 通)
	二種混合 未接種者 (平成 19 年 6 月 1 日～ 平成 20 年 3 月 31 日生まれ)	二種混合勧奨ハガキ	7 月～ 3 月	10 (675 通)
	高齢者肺炎球菌 未接種者 (年度内に 65 歳になる方)	高齢者肺炎球菌お知らせハガキ	1 月	1 (1, 703 通)

風しんの追加的対策 抗体検査 未実施者 (昭和 47 年 4 月 2 日～ 昭和 54 年 4 月 1 日生まれの男性)	風しん抗体検査・予防接種勧奨 ハガキ	3 月	1 (7576 通)
予防接種 未接種者 (昭和 37 年 4 月 2 日～昭和 54 年 4 月 1 日生まれの男性のうち、抗 体検査結果が定期接種対象の方)	麻疹風しん (MR) 5 期勧奨 ハガキ	2 月	1 (115 通)
1 歳児	麻疹風しん (MR) 1 期、水 痘の接種勧奨ハガキ ※おたふくかぜワクチン接種費 用一部助成制度についても記載	毎月	12
4 か月乳児相談 対象者	B C G の案内文 (案内文に同封)	毎月	12
もぐもぐ教室 (8 か月) 対象者	B C G の案内文 (案内文に同封)	毎月	12
1 歳 6 か月児健診 対象者	麻疹風しん (MR) 1 期と水 痘の案内文 (問診票に同封)	4 月～ 2 月	11
2 歳半幼児歯科健診 対象者	水痘の案内文 (問診票に同封)	4 月～ 2 月	11
3 歳幼児歯科健診 対象者	日本脳炎の案内文 (問診票に同封)	4 月～ 2 月	11
4 か月乳児相談 未受所者	案内文に B C G について記載	4 月～ 2 月	11
4 か月乳児相談、1 歳 6 か月児健診、3 歳児健診 来所者	保健師相談において未接種者へ 勧奨	4 月～ 2 月	87

【広報紙・ポスター・ホームページ他】

種類	内容
麻疹風しん (MR) 予防接種	・ こうほう佐倉に掲載 (3 回) ・ ポスターを、市内保育施設 (36)、市内幼稚園 (13) に掲示 ・ ホームページに掲載
日本脳炎予防接種	・ こうほう佐倉に掲載 (1 回) ・ ホームページに掲載
高齢者インフルエンザ 予防接種	・ こうほう佐倉に掲載 (3 回) ・ ポスターを市内協力医療機関 (78) に掲示 ・ ホームページに掲載
高齢者肺炎球菌予防接種	・ こうほう佐倉に掲載 (3 回) ・ ホームページに掲載
風しんの追加的対策	・ こうほう佐倉に掲載 (2 回) ・ ポスターを、保健センター等各公共施設 (29)、市内保育施設 (36)、市内幼稚園 (13)、市内実施医療機関 (56) に掲示

	・ホームページに掲載
おたふくかぜワクチン 接種費用一部助成制度	・こうほう佐倉に掲載（1回） ・リーフレットを、各保健センター、子育て支援課、市内実施医療機関（34）に配架 ・ポスターを、保健センター等各公共施設（29）、市内保育施設（36）、市内幼稚園（13）に掲示 ・ホームページに掲載
風しんワクチン 接種費用一部助成制度	・こうほう佐倉に掲載（1回） ・リーフレットを、各保健センター、子育て支援課、市内実施医療機関（55）に配架 ・ホームページに掲載
インフルエンザ予防啓発	・ポスターを、各保健センター、子育て支援課、市内保育施設（36）、市内幼稚園（3）に掲示
その他感染症	・麻しん、手足口病、エボラ出血熱、蚊媒介感染症対策、ダニ媒介感染症対策についてホームページに掲載

【その他】

- ・保育園看護師へ予防接種についての研修会を実施（4月）
- ・教員向け学校保健研修会で風しんに関する周知啓発（8月）
- ・養護教諭研修会で予防接種について説明（9月）
- ・就学時健診における予防接種説明、予防接種履歴確認、接種勧奨（10月～12月）
小学校 23 校、欠席者対応 2 回、計 25 回 1,272 名に対し実施。
- ・ケアマネジャー研修会でのインフルエンザ及び肺炎球菌に関する周知啓発（10月）

(1) B型肝炎予防接種

《目 的》

B型肝炎ウイルスによる感染症発生の予防

《対象及び実施方法》

対象		実施方法
1・2回目	1歳未満	B型肝炎(HB)ワクチン 0.25ml を 27 日以上の間隔をおいて 2 回皮下注射
3回目		初回接種後 139 日以上の間隔をおいて 0.25ml を 1 回皮下注射

※平成 28 年 10 月 1 日から定期接種として導入された。

《実 績》

令和元年度実施結果

	対象者数 (人)	接種者数 (人)	接種率 (%)
1 回目	903	904	100.1
2 回目	903	902	99.9
3 回目	903	844	93.5
合計	2,709	2,650	97.8

※厚生労働省の算定基準に基づき、対象者を令和元年 9 月末人口で算出しているため、接種率が 100%を超える場合がある。

年度別接種率の推移

年度	接種者数 (人)	接種率 (%)
平成 28 年度	1,531	47.7
平成 29 年度	3,060	103.8
平成 30 年度	2,977	97.5
令和元年度	2,650	97.8

《考 察》

今年度途中に、ワクチンが不足した時期がみられ、1歳の誕生日が近い対象者や、1回目の接種者を先に接種するなど、優先順位をつける医療機関があった。そのため、対象者が本予防接種を受けたいときに受けられない状況はあったものの、全体的に大きな影響はみられず、昨年度と同等の100%近い接種率であった。

(2) ヒブ予防接種

《目 的》

インフルエンザ菌 b 型による感染症、特に侵襲性の感染症（髄膜炎、敗血症、蜂巣炎、関節炎、喉頭蓋炎、肺炎および骨髄炎）の予防

《対象及び実施方法》

対象		実施方法
初回	生後 2 か月～5 歳未満	ヒブワクチン 0.5ml を 27 日以上の間隔をおいて 3 回皮下注射
追加		初回接種後 7 か月以上の間隔をおいて 0.5ml を 1 回皮下注射

※平成 25 年 4 月に定期接種に位置づけられた。

※接種開始年齢によって接種回数が異なる。

《実 績》

令和元年度実施結果

	対象者数（人）	接種者数（人）	接種率（％）
1 回目	903	922	102.1
2 回目	903	893	98.9
3 回目	903	882	97.7
4 回目	903	957	106.0
合計	3,612	3,654	101.2

※厚生労働省の算定基準に基づき、対象者を令和元年 9 月末人口で算出しているため、接種率が 100％を超える場合がある。

年度別接種率の推移

年度	接種者数（人）	接種率（％）
平成 27 年度	4,667	99.2
平成 28 年度	4,250	99.4
平成 29 年度	4,119	104.8
平成 30 年度	4,093	100.5
令和元年度	3,654	101.2

《考 察》

接種率は常に 100%前後を推移しており、令和元年度についても、2 月にワクチン不足があり接種者数が大きく落ち込んだが、短期間でワクチンの流通が落ち着き、接種率にはほとんど影響が見られなかった。1 回目接種者 922 人中 913 人（99.0%）が標準的な接種期間である 2～7 か月未満で接種できしており、その中でも 758 人（82.2%）が 2 か月で開始している。今後も適切に接種ができるよう周知啓発を図っていきたい。

(3) 小児用肺炎球菌予防接種

《目 的》

肺炎球菌（血清型 1, 3, 4, 5, 6A, 6B, 7F, 9V, 14, 18C, 19A, 19F, 23F）による侵襲性感染症の予防

《対象及び実施方法》

対象		実施方法
初回	生後 2 か月～5 歳未満	小児用肺炎球菌ワクチン 0.5ml を 27 日以上の間隔で 3 回皮下注射
追加		初回接種後 60 日以上の間隔でワクチン 0.5ml を 1 回皮下注射

※平成 25 年 4 月に定期接種に位置づけられた。

※平成 25 年 11 月より使用されるワクチンが 7 価ワクチンから 13 価ワクチン（血清型 1, 3, 4, 5, 6A, 6B, 7F, 9V, 14, 18C, 19A, 19F, 23F）に変更された。（接種間隔・回数に変更なし）

※接種開始年齢によって接種回数が異なる。

《実 績》

令和元年度実施結果

	対象者数（人）	接種者数（人）	接種率（％）
1 回目	903	929	102.9
2 回目	903	936	103.7
3 回目	903	916	101.4
4 回目	903	1,012	112.1
合計	3,612	3,793	105.0

※厚生労働省の算定基準に基づき、対象者を令和元年 9 月末人口で算出しているため、接種率が 100％を超える場合がある。

年度別接種率の推移

年度	接種者数（人）	接種率（％）
平成 27 年度	4,675	99.4
平成 28 年度	4,256	99.5
平成 29 年度	4,134	105.1
平成 30 年度	4,092	100.5
令和元年度	3,793	105.0

《考 察》

接種率は 100％前後と高い値で推移しており、令和元年度についても同様の傾向にある。1 回目接種者 929 人中 920 人（99.0％）が標準的な接種期間である 2～7 か月未満で接種できており、その中でも 800 人（86.1％）が 2 か月未満で開始している。今後も適切に接種ができるよう周知啓発を図ってきたい。

- (4) 四種混合（ジフテリア、百日せき、破傷風、ポリオ）DPT-IPV
 三種混合（ジフテリア、百日せき、破傷風）DPT
 不活化ポリオ予防接種
 二種混合（ジフテリア、破傷風）DT 予防接種

四種混合DPT-IPV・三種混合DPT

《目 的》

ジフテリア、百日せき、破傷風、急性灰白髄炎の発生及びまん延の予防

《対象及び実施方法》

種 別	対 象		実 施 方 法
四種混合	第 1 期 (初回)	生後 3 か月～90 か月未満	沈降精製ジフテリア・百日せき・破傷風・不活化ポリオ混合ワクチンを 20 日以上の間隔をおいて 0.5ml を 3 回皮下注射
	第 1 期 (追加)		沈降精製ジフテリア・百日せき・破傷風・不活化ポリオ混合ワクチンを 1 期初回完了後 6 か月以上の間隔をおいて 0.5ml を 1 回皮下注射
三種混合	第 1 期 (初回)		沈降精製ジフテリア・百日せき・破傷風混合ワクチンを 20 日以上の間隔をおいて 0.5ml を 3 回皮下注射
	第 1 期 (追加)		沈降精製ジフテリア・百日せき・破傷風混合ワクチンを第 1 期初回完了後 6 か月以上の間隔をおいて 0.5ml を 1 回皮下注射

※平成 24 年 11 月から四種混合ワクチンが定期予防接種として導入された。

《実 績》

令和元年度実施結果

種別	回数		対象者数（人）	実施者数（人）	接種率（%）
四種混合	第 1 期	1 回	946	932	98.5
		2 回	946	930	98.3
		3 回	946	935	98.8
		追加	946	1,123	118.7
	合計		3,784	3,920	103.6
三種混合	第 1 期	1 回	946	4	0.4
		2 回	946	1	0.1
		3 回	946	0	—
		追加	946	3	0.3
	合計		3,784	8	0.2

※厚生労働省の算定基準に基づき、対象者を令和元年 9 月末人口で算出しているため、接種率が 100%を超える場合がある。

年度別接種率の推移（四種混合 1 期合計）

年度	実施者数（人）	接種率（％）
平成 27 年度	4,671	99.0
平成 28 年度	4,409	99.3
平成 29 年度	4,197	103.5
平成 30 年度	4,305	104.6
令和元年度	3,920	103.6

年度別接種率の推移（三種混合 1 期合計）

年度	実施者数（人）	接種率（％）
平成 27 年度	1	0.0
平成 28 年度	0	—
平成 29 年度	0	—
平成 30 年度	2	0.0
令和元年度	8	0.2

《考 察》

例年100%前後の高い接種率を推移しており、令和元年度についても同様の傾向であった。月別の接種状況で新型コロナウイルスの流行により2月、3月の接種率が下がった予防接種もあったが、本ワクチンについては例年と変わらない状況であった。

不活化ポリオ予防接種

《目 的》

急性灰白髄炎（ポリオ）の発生及びまん延の予防

《対象及び実施方法》

対 象		実 施 方 法
第 1 期 (初回)	生後 3 か月～90 か月未満	不活化ポリオワクチンを 20 日以上の間隔をおいて 0.5ml を 3 回皮下注射
第 1 期 (追加)		不活化ポリオワクチンを第 1 期初回完了後 6 か月以上の間隔をおいて 0.5ml を 1 回皮下注射

《実 績》

令和元年度実施結果

回数		対象者数（人）	実施者数（人）	接種率（％）
第 1 期	1 回	946	0	—
	2 回	946	0	—
	3 回	946	1	0.1
	追加	946	4	0.4
合計		3,784	5	0.1

年度別接種率の推移

年度	接種者数（人）	接種率（％）
平成 27 年度	415	8.8
平成 28 年度	209	4.7
平成 29 年度	138	3.4
平成 30 年度	45	1.1
令和元年度	5	0.1

《考 察》

平成 24 年 11 月から四種混合ワクチンが定期予防接種として導入されたことにより、不活化ポリオワクチンの接種者は年々減少している。

二種混合（ジフテリア、破傷風）D T 予防接種

《目 的》

ジフテリア、破傷風の発生及びまん延の予防

《対象及び実施方法》

対 象	実 施 方 法
11 歳～13 歳未満	沈降精製ジフテリア、破傷風混合トキソイドワクチン 0.1ml を 1 回皮下注射

《実 績》

令和元年度実施結果

種別	対象者数（人）	接種者数（人）	接種率（％）
二種混合 第 2 期	1,498	1,101	73.5

年度別接種率の推移

年度	接種者数(人)	接種率(%)
平成 27 年度	1,130	71.4
平成 28 年度	1,106	76.9
平成 29 年度	1,145	80.0
平成 30 年度	1,218	79.2
令和元年度	1,101	73.5

《考 察》

二種混合の接種者数はやや減少しており、接種率で昨年度より 5.7 ポイントの減少であった。

一方、日本小児科学会で勧めていることもあり、百日咳の予防を目的に、二種混合（定期接種）の代わりに三種混合（任意接種）を接種する者が増えている。（市で把握しているものだけで、平成 30 年度に 20 人、令和元年度に 75 人）任意接種の扱いのため、接種率には反映されていないが、仮に二種混合の接種者数に含めると接種率が 78.5%となる。二種混合の接種状況と併せて、これらについても注視していきたい。

(5) BCG予防接種

《目 的》

乳幼児における結核性髄膜炎や粟粒結核などの予防、結核のまん延の予防

《対象及び実施方法》

対 象	実 施 方 法
生後 1 歳未満	乾燥BCGワクチンを 1 滴滴下し管針で経皮接種

※佐倉市予防接種委員会での検討結果を踏まえ、免疫不全症が比較的明らかとなる 3 か月からを原則の接種期間としている。

《実 績》

令和元年度実施結果

対象者数（人）	接種者数（人）	接種率（%）
903	911	100.9

※厚生労働省の算定基準に基づき、対象者を令和元年年 9 月末人口で算出しているため、接種率が 100%を超える場合がある。

年度別接種率の推移

年度	接種者数（人）	接種率（%）
平成 27 年度	1,189	101.1
平成 28 年度	1,071	100.2
平成 29 年度	997	101.4
平成 30 年度	1,055	103.6
令和元年度	911	100.9

《考 察》

この 5 年間の接種率は、100%を超える高い数値で推移している。また、接種時期についても 911 人中 845 人（接種者の 92.8%）が標準的接種期間である 5～8 か月未満で接種ができていた。引き続き、適切な時期に接種を行えるよう周知啓発を行っていききたい。

(6) 麻しん（はしか）・風しん予防接種

《目 的》

麻しん、風しんの発生及びまん延の予防

《対象及び実施方法》

対 象		実 施 方 法
第 1 期	生後 12 か月～24 か月未満	・麻しん風しん混合ワクチン(MR)0.5ml を 1 回皮下注射 <単抗原ワクチン希望の方> ・麻しん単抗原ワクチン 0.5ml を 1 回皮下注射 ・風しん単抗原ワクチン 0.5ml を 1 回皮下注射
第 2 期	5 歳～7 歳未満で小学校就学前の 1 年間	

《実 績》

令和元年度麻しん風しん実施結果

種別	期別	対象者数（人）	接種者数（人）	接種率（％）
麻しん風しん	第 1 期	1,072	995（長期療養 1 人含む）	92.8
	第 2 期	1,329	1,253（長期療養 1 人含む）	94.3
	合計	2,401	2,248（長期療養 2 人含む）	93.6
麻しん	第 1 期	1,072	0	—
	第 2 期	1,329	0	—
	合計	2,401	0	—
風しん	第 1 期	1,072	0	—
	第 2 期	1,329	0	—
	合計	2,401	0	—

※厚生労働省の算定基準に基づき、対象者を第 1 期は令和元年 9 月末人口、第 2 期は平成 31 年 3 月末人口で算出しているため、接種率が 100％を超える場合がある。

年度別麻しん風しん接種率の推移（麻しん風しん混合＋麻しん単抗原＋風しん単抗原実施者）

年度	期別	接種者数（人）	接種率（％）
平成 27 年度	第 1 期	1,156（長期療養 1 人含む）	97.1
	第 2 期	1,352	92.5
平成 28 年度	第 1 期	1,073	87.0
	第 2 期	1,244（長期療養 2 人含む）	91.9
平成 29 年度	第 1 期	1,134	102.3
	第 2 期	1,249	93.5
平成 30 年度	第 1 期	1,046	98.6
	第 2 期	1,280（長期療養 1 人含む）	94.8
令和元年度	第 1 期	995（長期療養 1 人含む）	92.8
	第 2 期	1,253（長期療養 1 人含む）	94.3

《考 察》

1期、2期ともに接種率を95%以上にすることが目標とされているが、いずれも95%を下回っている。

今年度は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、外出の自粛が見られていたことが接種率の低下に影響している可能性が考えられる。厚生労働省からは、予防接種は自粛せずに適切な時期に接種することとされており、次年度の接種状況について注視し、必要な勧奨を行っていく必要があると考える。

(7) 水痘（みずぼうそう）予防接種

《目 的》

水痘 - 帯状疱疹ウイルスによる感染症の発生及びまん延の予防

《対象及び実施方法》

対象	実施方法
生後 12 か月から生後 36 か月未満	乾燥弱毒生水痘ワクチン 0.5ml を 2 回皮下注射。 3 月以上の間隔をおく

《実 績》

令和元年度実施結果

期別	対象者数（人）	接種者数（人）	接種率（％）
1 回目	1,072	1,001	93.4
2 回目	1,072	950	88.6
合計	2,144	1,951	91.0

※厚生労働省の算定基準に基づき、対象者を令和元年9月末の1歳人口としている。

年度別接種率の推移

年度	接種者数（人）	接種率（％）
平成 27 年度	2,370	99.6
平成 28 年度	2,132	86.4
平成 29 年度	2,143	96.7
平成 30 年度	2,096	98.8
令和元年度	1,951	91.0

《考 察》

昨年度の接種率より7.8ポイント減となっている。特に、2回目接種の接種率が低かった。月別接種状況や接種回数別の傾向を昨年度と比べるも大きな差は見られず、1年間を通して全体的に接種者数が減っている。人口推移をみると、平成31年3月から令和2年3月の1年間で0歳児の人口が65人減、1歳児の人口が107人減となっている。対象者数は令和元年9月末の1歳児の人口としており、母数が減ったことにより接種率が下がった可能性が考えられる。今後の接種状況について注視していきたい。

(8) 日本脳炎予防接種

《目 的》

日本脳炎の発生の予防

《対象及び実施方法》

対 象		実 施 方 法
第 1 期 (初回)	生後 6 か月～90 か月未満	日本脳炎ワクチンを 6 日以上の間隔 において 0.5ml を 2 回皮下注射 (3 歳未満の場合、接種量は 0.25ml)
第 1 期 (追加)		初回接種後 6 か月以上の間隔をおい て 0.5ml を 1 回皮下注射 (3 歳未満の場合、接種量は 0.25ml)
第 2 期	9 歳～13 歳未満	0.5ml を 1 回皮下注射
特例 (実施規則 附則第 5 条)	平成 17 年度から平成 21 年度にかけての積極 的勧奨の差し控えにより接種を受ける機会を 逸した者 (平成 7 年 4 月 2 日から平成 19 年 4 月 1 日生まれ) 20 歳未満	第 1 期、第 2 期の未接種分を接種
特例 (実施規則 附則第 4 条)	平成 17 年度から平成 21 年度にかけての積極 的勧奨の差し控えにより接種を受ける機会を 逸した者 (平成 19 年 4 月 2 日から平成 21 年 10 月 1 日生まれ) 13 歳未満	第 1 期の未接種分を接種

《実 績》

令和元年度実施結果

種別	回数	対象者数 (人)	接種者数 (人)	接種率 (%)
第 1 期	1 回目	1, 167	1, 531	131. 2
	2 回目	1, 167	1, 528	130. 9
	追加	1, 295	1, 536	118. 6
第 2 期		1, 382	1, 205	87. 2
特 例	第 1 期	1 回目	71	
		2 回目	70	
		追加	168	
	第 2 期		280	17. 8
合計		6, 584	6, 389 (6, 080)	97. 0 (92. 3)

※特例第 1 期の対象者数は、平成 27 年度以降算出方法が示されていない。

※ () は、特例第 1 期(対象者数が示されていない期間)の実施者数を除いて算出したもの。

※厚生労働省の算定基準に基づき、対象者を令和元年 9 月末の 3 歳、4 歳、9 歳、
18 歳 (特例措置対象者) の人口で算出しているため、接種率が 100%を超えるこ
とがある。

接種時の年齢（特例措置分を除く）

	第 1 期初回			第 2 期	総計
	1 回目	2 回目	追加		
0 歳	606	546			1,152
1 歳	279	289	268		836
2 歳	99	120	168		387
3 歳	373	366	225		964
4 歳	36	61	362		459
5 歳	66	68	282		416
6 歳	67	73	184		324
7 歳	5	5	47		57
9 歳				628	628
10 歳				173	173
11 歳				197	197
12 歳				207	207
総計	1,531	1,528	1,536	1,205	5,800

全接種者 年度別接種率の推移

年度	接種者数(人)	接種率(%)
平成 27 年度	5,079	72.6
平成 28 年度	6,001	85.1
平成 29 年度	6,560	95.3
平成 30 年度	7,058	101.5
令和元年度	6,389	97.0

第 1 期 年度別接種率の推移（特例措置を除く）

年度	接種者数(人)	接種率(%)
平成 27 年度	3,630	92.1
平成 28 年度	4,479	114.8
平成 29 年度	5,136	133.7
平成 30 年度	5,070	131.6
令和元年度	4,595	126.6

第 2 期 年度別接種率の推移（特例措置を除く）

年度	接種者数(人)	接種率(%)
平成 27 年度	759	53.6
平成 28 年度	991	65.5
平成 29 年度	883	60.2
平成 30 年度	1,332	89.8
令和元年度	1,205	87.2

《考 察》

昨年度に比べると接種率がやや低下しているが、年度別接種率の推移をみると、比較的高い接種率で推移している。今年度は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、外出の自粛が見られていたことが接種率に影響を与えている可能性が考えられる。大きな減少にはならなかったが、次年度以降の接種状況をみながら勧奨等を検討していきたい。

(9) 子宮頸がん予防接種（サーバリックス・2価、ガーダシル・4価）

《目 的》

サーバリックス

子宮頸がんの原因となる HPV16 型及びの予防 18 型ウイルスの感染及び前がん病変予防。

ガーダシル

子宮頸がんの原因となる HPV16 型及びの予防 18 型ウイルスの感染及び前がん病変予防。

尖圭コンジローマや再発性呼吸器乳頭腫症の原因となる 6 型及び 11 型の感染予防。

《対象及び実施方法》

ワクチン名	対象	実施方法
サーバリックス	小学校 6 年生 ～高校 1 年生 の女子	子宮頸がん予防ワクチン 0.5ml を 0・1・6 か月の間隔で 3 回筋肉注射
ガーダシル		子宮頸がん予防ワクチン 0.5ml を 0・2・6 か月の間隔で 3 回筋肉注射

※平成 23 年 4 月から子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進事業の一環としての接種が行われ、その後、平成 25 年 4 月に定期接種に位置づけられた。

※平成 25 年 6 月 14 日に開催された厚生科学審議会において、ワクチンとの因果関係を否定できない持続的な疼痛が接種後に特異的にみられたことから、同副反応の発生頻度等がより明らかになるまで、定期接種を積極的に勧奨すべきでないと言われた。引き続き定期接種として無料で受けていただくことは可能。副反応によって健康被害が生じた場合には予防接種法に基づく補償を受けることができる。

《実 績》

令和元年度実施結果

	対象者数（人）	接種者数（人）	接種率（％）
1 回目	695	12	1.7
2 回目	695	11	1.6
3 回目	695	11	1.6
合計	2,085	34	1.6

年度別接種率の推移

年度	接種者数（人）	接種率（％）
平成 27 年度	19	0.8
平成 28 年度	3	0.1
平成 29 年度	3	0.1
平成 30 年度	20	0.9
令和元年度	34	1.6

《考 察》

定期接種の対象者への個別の周知は行っていないため、接種者数は 1%前後と低い。また、積極的勧奨の差し控えとなってから 6 年以上経ち、対象であることを知らないままに接種期間が過ぎてしまった者も多い。接種再開の目途はたっておらず、引き続き国の検討内容を注視し対応していくこととする。

(10) インフルエンザ予防接種

《目 的》

インフルエンザの個人の発病又はその重症化を防止し、併せてこれにより間接的な集団予防を図ることを目的とする。

《対象及び接種方法》

対 象	接 種 方 法
①65 歳以上の者 ②60～65 歳未満で心臓、腎臓、呼吸器の機能またはヒト免疫不全ウイルスにより免疫の機能に日常生活がほとんど不可能な程度の障害を有する者	インフルエンザHAワクチンを1回皮下注射

《実 績》

令和元年度実施結果

対象年齢	対象者数（人）	接種者数（人）	接種率（%）
65 歳以上	54,952	31,010	
60～64 歳		19	
合計	54,952	31,029	56.5

年度別接種率の推移

年度	接種者数（人）	接種率（%）
平成 27 年度	26,944	54.1
平成 28 年度	27,548	53.5
平成 29 年度	27,205	51.5
平成 30 年度	28,667	53.0
令和元年度	31,029	56.5

《考 察》

毎年、対象者へ予診票を個別通知することで周知を図っている。インフルエンザの予防接種はB類疾病で積極的な接種勧奨にならないこと、自らの意志と責任で接種を希望する場合に接種を行うこととされているが、一方で、高齢者施設に入所している高齢者について、34～55%の発病を阻止し、82%の死亡を阻止する効果があったとの報告もある。高齢者が接種についての的確に判断することができるよう、わかりやすい周知方法を検討していくことが必要と考えられる。

(11) 高齢者肺炎球菌予防接種

《目 的》

肺炎球菌（血清型 23 種類）による呼吸器感染症、副鼻腔炎、中耳炎、髄膜炎、敗血症などの予防

《対象及び実施方法》

対象	実施方法
過去に 23 価肺炎球菌莢膜多糖体ワクチンの接種歴のない者で、以下に該当する者 ①平成 31 年 4 月 1 日から令和 2 年 3 月 31 日までの間に 65 歳、70 歳、75 歳、80 歳、85 歳、90 歳、95 歳又は 100 歳となる者 ②60～65 歳未満で心臓、腎臓、呼吸器の機能またはヒト免疫不全ウイルスにより免疫の機能に日常生活がほとんど不可能な程度の障害を有する者	23 価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチン 0.5ml を 1 回筋肉内又は皮下に注射する。

※平成 23 年 4 月から接種費用一部助成を行ってきたが、平成 26 年 10 月 1 日より定期接種に位置づけられた。

《実 績》

令和元年度実施結果

対象年齢	対象者数（人）	接種者数（人）	接種率（%）
65 歳以上	12,071	1,876	
60～64 歳		0	
合計	12,071	1,876	15.5

年度別接種率の推移

年度	接種者数（人）	接種率（%）	（再掲）65 歳相当の者の接種状況	
			接種者数（人）	接種率（%）
平成 26 年度	4,801	43.6	1,962	55.0
平成 27 年度	5,400	49.3	2,001	63.1
平成 28 年度	5,411	45.6	1,805	62.6
平成 29 年度	5,872	46.3	1,686	61.3
平成 30 年度	5,439	43.7	1,545	60.5
令和元年度	1,876	15.5	1,275	53.8

《考 察》

平成 26 年から平成 30 年度までの 5 年間に於いて、65 歳以上で 5 歳刻みの接種対象者に予防接種を実施し、昨年度で制度が終了する予定であったが、さらに 5 年間、制度の延長となった。70 歳以上の者については 5 年前に一度対象となっていること、接種対象者は任意接種も含めてこれまでに接種したことがない者であるため、接種率は大きく減少している。

一方、今年度初めて対象となった 65 歳相当の者だけの接種率をみると、53.8%であり、65 歳相当の者の年度別接種率の推移ではやや低い結果であった。

(12) 風しんの追加的対策（第5期接種）

《目 的》

風しんの発生及びまん延の予防

《対象及び実施方法》

対 象 ： 1962年4月2日から1979年4月1日までの間に生まれた男性

抗体検査を実施し、その結果「十分な量の風しんの抗体がない者」が風しんの第5期定期接種の対象とする。

実施方法：予防接種法に基づく定期接種とし、令和元年度から3年間、全国無料で実施

《実 績》

令和元年度 抗体検査実施結果

種別	実施件数	対象者数	抗体検査の実施率	結果	陰性率
風しんの抗体検査	2,006人	10,098人	19.9%	陽性：1,563人 陰性：443人	22.1%

*抗体検査の実施率＝令和元年度中の実施件数／平成31年3月末の昭和47年4月2日～昭和54年4月1日生まれの男性の人数

令和元年度 予防接種の実施結果

種別	実施件数	対象者数	接種率
麻しん風しん混合ワクチン	357人	443人	80.6%
風しんワクチン	2人		0.5%
合計	359人	443人	81.0%

*予防接種の接種率＝令和元年度中の実施件数／抗体検査の陰性者

《考 察》

令和元年度は対象者のうち、1972年4月2日から1979年4月1日の間に生まれた男性にクーポン券を送付した。本事業の対象者の多くが働く世代であることから、抗体検査の実施に当たっては、事業所健診の機会を利用した実施や、休日・夜間の実施の体制を整備している。佐倉市の状況では、抗体検査を受けた2006人中544人（27.1%）が健診の機会に実施、66人（3.3%）が休日や夜間に実施していた。

東京オリンピック、パラリンピック競技大会開催による訪日客の増加への対策として、早急に風しんに対する免疫を獲得させることが重要であり、そのためにはより多くの者に抗体検査を受けさせることが必要とされている。対象者への周知、啓発を繰り返し行う等、受験率の向上に努めたい。

2. 予防接種（任意）

（1） おたふくかぜワクチン接種費用助成事業

《目 的》

耳の下にある耳下腺の腫れを特徴とするウイルス感染症の発生を予防し、子育て支援の一助とするため接種費用の一部を助成する。

《内 容》

①対象

- ・1～2歳児（生後12か月～36か月未満）の市民（接種日時点）

※平成31年4月1日～令和2年3月31日の接種が対象

②実施方法

- ・医療機関にある予診票を使って接種を受け、接種費用を医療機関に支払う
- ・接種後、各保健センターで助成の申請（郵送可）
- ・申請後、後日市から指定口座に助成金を振り込む

③助成金額

3,000円

④周知方法

- ・こうほう佐倉・ホームページに制度の案内を掲載
- ・市内実施医療機関や保健センター等にてポスター掲示、リーフレット配布
- ・1歳の誕生月に制度の案内はがきを個別通知

《実 績》

令和元年度実施結果

対象者数（人）	助成者数（人）
1,382	781

※対象者数は、令和元年9月末時点の1歳児と2歳児の数から、平成30年度助成済の1歳児772人を除いた数。

年度別助成者数の推移

年度	対象者数（人）	助成者数（人）
平成27年度	1,764	975
平成28年度	1,661	962
平成29年度	1,484	826
平成30年度	1,407	792
令和元年度	1,382	781

《考 察》

平成26年度より制度が開始され、制度の利用率は56%前後で推移している。1歳児に限った制度の利用率は約70%であり、任意接種ではあるが1歳になったら接種する予防接種として広く認識されていることが分かる。

平成27年度から継続して行っている個別通知など、今後も様々なかたちでの制度の周知、啓発に努めていく。

(2) 風しんワクチン接種費用助成事業

《目 的》

千葉県等が実施主体となり、先天性風しん症候群の発生を未然に防止するため風しん抗体検査を実施している。本事業は千葉県が実施する抗体検査の結果、抗体価が低かった者の風しんワクチン接種を促進し、妊婦への風しん感染防止、先天性風しん症候群の発症防止を図り、公衆衛生の向上及び増進に寄与することを目的とする。

《内 容》

①対象

- ・平成 30 年 12 月 25 日以降に県の実施する抗体検査又は、風しん追加的対策による抗体検査を受けた結果が HI 法で 32 倍未満、又は EIA (IgG) 法で 8.0 未満の方で、ワクチン接種を受けた方
- ※平成 31 年 4 月 1 日から令和 2 年 3 月 31 日の接種が対象

②実施方法

- ・医療機関にある予診票を使って接種を受け、接種費用を医療機関に支払う
- ・接種後、各保健センターで助成の申請（郵送可）
- ・申請後、後日市から指定口座に助成金を振り込む

③助成金額

- ・風しんワクチン 3,000 円
- ・麻しん風しん混合（MR）ワクチン 5,000 円

④周知方法

- ・こうほう佐倉・ホームページに制度の案内を掲載
- ・市内実施医療機関や各保健センター等にてリーフレット配布

《実 績》

令和元年度実施結果

助成者数（人）
27

年度別助成者の推移

年度	助成者数（人）
平成 30 年度	10
令和元年度	27

《考 察》

助成者の男女比は男性 15 人、女性 12 人であった。今年度から風しんの追加的対策も始まり、クーポン券で抗体検査を受けた結果、抗体が不十分だった方も対象となったが、助成者数はあまり増えなかった。制度の周知に努めると共に、妊婦健診や勤務先で抗体検査を受けて予防接種をする方も多くいるため、制度の対象者について検討の余地があると思われる。

3. 結核予防

(1) 結核検診

根拠法令等	感染症法（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律）
-------	----------------------------------

《目 的》

結核検診を行うことにより、結核患者の発生防止及び結核の蔓延を予防する。

《内 容》

① 対象者

市内在住の 65 歳以上の男女

② 実施方法

ア 集団検診

検診業者に委託し実施

- ・期 間 6 月 5 日～12 月 8 日、市内 19 会場、57 日間実施。
- ・費 用 300 円（税込み）
- ・検診内容 検診車両での、胸部レントゲン間接撮影及び読影を実施。

イ 個別検診

- ・期 間 6 月 1 日～12 月 10 日、市内 41 医療機関で実施。
- ・費 用 1,300 円（税込み）
- ・検診内容 胸部レントゲン直接撮影及び読影を実施。

③ 周知方法

ア 個人通知

市内在住の 65 歳以上の男女で、下記に該当するかた

- ・ 70 歳のかた
- ・ 平成 30 年度に市の健診(検診)を受診したかた
- ・ 市の特定健診(健康診査)の対象となるかた
- ・ 生活保護受給者のかた

イ 「こうほう佐倉」、ホームページ、周知啓発に努めた。

《実 績》

① 過去 5 年間の実施状況

年度	対象者(人)	受診者(人)	受診率(%)
平成27年度	50,100	14,209	28.4
平成28年度	51,361	14,431	28.1
平成29年度	52,350	14,711	28.1
平成30年度	53,650	15,327	28.6
令和元年度	54,690	15,365	28.1

② 胸部レントゲン検診（結核検診）実施結果

	対象者 (人)	受診者 (人)	受診率 (%)	要精密検査 者 (人)	要精密検査率 (%)	精密検査受診 者 (人)	結核発見 数 (人)
集団	54,690	6,265	11.5	82	1.3	75	0
個別		9,100	16.6	307	3.4	229	0
合計	54,690	15,365	28.1	389	2.5	304	0

③ 性別、年代別受診状況及び精密検査実施状況

性別	年代	対象者	受 診 者		要 精 密 検 査 (人)	要精密検査区分										精密検査受診状況	
						結核性		非結核性		腫瘍性		循環器		その他		未 受 診 者 (人)	結核 (人)
						人	%	人	%	人	%	人	%	人	%		
男性	65～69	6,806	1,046	15.4	18	0	0.0	6	33.3	9	50.0	0	0.0	3	16.7	3	0
	70～74	6,936	2,113	30.5	52	1	1.9	12	23.1	27	51.9	3	5.8	9	17.3	12	0
	75～79	5,840	2,031	34.8	53	1	1.9	12	22.6	36	67.9	1	1.9	3	5.7	6	0
	80歳以上	5,546	1,559	28.1	51	0	0.0	12	23.5	26	51.0	7	13.7	6	11.8	12	0
	小計	25,128	6,749	26.9	174	2	1.1	42	24.1	98	56.3	11	6.3	21	12.1	33	0
女性	65～69	7,571	1,763	23.3	20	0	0.0	6	30.0	8	40.0	3	15.0	3	15.0	5	0
	70～74	7,590	2,861	37.7	67	0	0.0	10	14.9	40	59.7	8	11.9	9	13.4	13	0
	75～79	6,323	2,362	37.4	61	0	0.0	20	32.8	31	50.8	7	11.5	3	4.9	12	0
	80歳以上	8,078	1,630	20.2	67	1	1.5	10	14.9	32	47.8	13	19.4	11	16.4	22	0
	小計	29,562	8,616	29.1	215	1	0.5	46	21.4	111	51.6	31	14.4	26	12.1	52	0
男性	集団	25,128	3,049	24.9	49	0	0.0	20	40.8	25	51.0	3	6.1	1	2.0	5	0
	個別		3,700		125	2	1.6	22	17.6	73	58.4	8	6.4	20	16.0	28	0
女性	集団	29,562	3,216	30.8	33	0	0.0	11	33.3	20	60.6	0	0.0	2	6.1	2	0
	個別		5,400		182	1	0.5	35	19.2	91	50.0	31	17.0	24	13.2	50	0
合計		54,690	15,365	28.1	389	3	0.8	88	22.6	209	53.7	42	10.8	47	12.1	85	0

※検診対象者数は、5月末時点での65歳以上の人口とする。

《考 察》

令和元年度は前年度と比較して、受診数は38人増加し受診率は0.5%減少した。

今後も高齢者が増加するため、検診の受診者数を増やし、結核患者の発生防止及び結核の蔓延予防をする必要がある。